

< 參 考 >

<参考1>

業種分類表(2007年6月調査)

大・中分類	小・細分類	備考(旧・日本標準産業分類等)
製造業		旧・日本標準産業分類(以下「標準」と略す)大分類F
[1] 食品	(1) 畜産加工食品 (2) 製粉・製糖・食用油 (3) ビール・酒類 (4) その他食品	「標準」中分類12、13 肉製品、乳製品 精穀、製粉、飼料、製糖、植物油、動物油、食用油脂加工(マーガリン等) アルコール飲料 水産食料品、野菜・果実かん詰、調味料、パン・菓子、清涼飲料、製氷、たばこ
[2] 織維	(1) 化合繊維 (2) 紡績 (3) その他織維	「標準」中分類14、15、小分類204 レーヨン、アセテート、合成繊維 化合繊紡績、綿紡績、毛、絹、麻、その他 織物、精練、漂白、染色、整理仕上、生糸、撚糸、かさ高加工糸、ニット、網、ロープ、レース、じゅうたん、縫製品
[3] 紙・パルプ		パルプ、和・洋紙、紙製品、紙製容品(段ボール等) 合成紙、セロハン
[4] 出版印刷		新聞、出版、印刷、製本
[5] 化学	(1) 無機化学 (2) 有機化学 (3) 医薬品 (4) その他化学	「標準」中分類20(除小分類204) ソーダ工業、圧縮ガス・液化ガス、硫酸、カーバイド、無機顔料、塩 ナフサセンター、合成樹脂、合成ゴム、オレフィン誘導品、メタン誘導品、発酵工業、コールタール、合成染料 硫安尿素、化学肥料、脂肪酸、グリセリン、石けん、界面活性剤、塗料、印刷インキ、火薬、農薬、香料、化粧品、歯みがき、接着剤、写真フィルム・材料原油ならびに留分の処理、給油施設、石油基地 天然ゴム、合成ゴム等より作られるゴム製品(タイヤ、チューブ、ベルト、ゴム引布等)
[6] 石油		
[7] ゴム		
[8] 窯業・土石	(1) セメント (2) ガラス (3) その他窯業土石	セメント、ブロック、生コン、気泡コンクリート 板ガラス、ガラス容器、理化学用ガラス、ガラス繊維、ガラス加工製品 陶磁器、耐火物、炭素、黒鉛、建設用粘土、研磨材、骨材、ほうろう
[9] 鉄鋼	(1) 普通鋼 (2) 特殊鋼 (3) その他鉄鋼	「標準」中分類26 製鉄、製鋼、および2次製品 工具鋼、構造用鋼他 鋳錠鋼、銑鉄錠物、フェロアロイ、シャーリング
[10] 非鉄金属	(1) 非鉄金属製鍊 (2) 非鉄金属圧延 (3) 電線・ケーブル (4) その他非鉄金属	「標準」中分類27 銅・鉛・亜鉛・アルミ製鍊、核燃料精製、貴金属・ニッケル・チタン製鍊 銅・鉛・アルミ圧延 裸電線、絶縁電線、ケーブル 非鉄金属錠物、ダイカスト、核燃料加工
[11] 金属製品		鉄塔、鋼橋、ブリキかん、めっき板、刃物、手工具、一般金物、暖房装置、配管用品、建設用金属製品(サッシ等) ボルト・ナット、粉末冶金
[12] 一般機械	(1) ポイラー・原動機 (2) 金属加工機械 (3) 事務民生用機械 (4) 産業用機械 (5) 一般機械部品	「標準」中分類29 ポイラー、蒸気機関、タービン、一般用内燃機関(除自動車用、船用、航空機用) 切削加工機械(旋盤、ボール盤、プレス) 機械工具(電動工具、ドリル等) 事務用機器(計算機、会計機、複写機、タイプライタ等) ミシン、手編機、工業用および商業用冷凍機 紡績機械、織機、編機、染色整理用機械・同部品、耕うん機、脱穀機、除草機、ブルドーザ、トラクタ、ロードローラ、電解槽、蒸留槽、熱交換器、乾燥機器、食料品加工機械、木工機械、印刷・製本機械、プラスチック加工機械、バルブ・製紙機械、ポンプ、圧縮機、エレベータ、コンベア、歯車、チェーン、油圧機器 消火器具・装置、弁、ベアリング、ピストンリング、金型

大・中分類	小・細分類	備 考(旧・日本標準産業分類等)
[13]電 気 機 械	(1)電 子 機 器 (2)電 気 機 器 (3)電 子 部 品 等	「標準」中分類30 電子計算機、電話機、交換機、放送装置、交通信号、火災警報装置、洗たく機、ラジオ、テレビ、音響機器、X線装置 発電機、変圧器、開閉装置、電流計、電気溶接機 半導体素子、集積回路、真空管、蓄電池
[14]精 密 機 械		計量器、測定器、分析器、医療用機器、光学機器、レンズ、カメラ、時計、眼鏡
[15]輸 送 用 機 械	(1)自 動 車 四輪車 二輪車 部品・車体 (2)造 船 (3)航 空 機 製 造 (4)その他の輸送用機械	「標準」中分類31 自動車エンジン・同部品、クラッチ車軸、ラジエータ、ブレーキ、オイルフィルター、トランスマッision他 造船、船用機関 航空機・同原動機 機関車、電車・同部品、自転車、リフト、荷車
[16]そ の 他 製 造 業		製材、合板、木製家具、プラスチック製品(除合成紙)、皮革製品、家具・家具装備品(木材・金属)、潤滑油、アスファルト、コークス、練炭、貴金属、楽器、がん具、鉛筆、漆器、傘
非 製 造 業		
[1]漁 業		「標準」大分類C 水産動植物の採取、移植、育成
[2]鉱 業		「標準」大分類D 掘採、選炭、天然ガソリンの生産等
[3]建 設		掘採、採石、採取、選鉱、品位向上処理
[4]卸 売 ・ 小 売	(1)卸 売 (2)小 売	「標準」大分類E 請負による建設工事、設備工事、舗装工事、浚渫工事等 「標準」大分類I 総合商社、各種商品卸売
[5]不 動 产		百貨店、スーパー・マーケット、飲食店、その他小売 土地造成(ただし分譲用は除く) 不動産賃貸、貸家・貸間(土地、建物とも分譲用は除く)
[6]運 輸	(1)鐵 道 (2)道 路 旅 客 運 送 (3)道 路 貨 物 運 送 (4)海 運 (5)航 空 (6)倉 庫 ・ 運 輸 関 連	私鉄、モノレール、トロリーバス、ケーブルカー、ロープウェイ バス、ハイヤー、タクシー トラック他 外航・内航運輸、船舶貨渡、長・短距離フェリーボート 航空運送、航空機使用業 普通倉庫(サイロ、タンク類を含む)、冷蔵倉庫、水面木材倉庫、港湾運送、道路施設、自動車(バス、トラック)ターミナル、コンテナヤード、空港ターミナル、埠頭、運送取扱、荷造
[7]電 力 ・ ガ ス	(1)電 力 九電力 その他電力 (2)ガス(含蒸気熱供給)	「標準」大分類G 自家発電、共同発電 都市ガス、プロパンガス供給、蒸気熱供給
[8]通 信 ・ 情 報	(1)通 信 (2)情 報 サ ー ビ ス (3)放 送	電話、電信 広告、調査・計算サービス
[9]リース(含レンタル)		総合リース、事務用機器(電算機を含む)賃貸
[10]サ ー ビ ス	(1)ホ テ ル ・ 旅 館 (2)映 画 ・ 娯 楽 (3)そ の 他 サ ー ビ 斯	映画、娯楽、その他レジャー関連 駐車場、自動車整備、貸自動車、警備保障、その他サービス業
[11]そ の 他 非 製 造 業		

<参考2>

調査票1（資本金10億円以上の企業）

会社コード	日本政策投資銀行		会社コード														
	2006・2007・2008年度 設備投資計画調査票		本社所在地														
			事業数														
■下記ご送付先に変更・訂正等がありましたら、ご記入下さい。																	
本社所在地都道府県名																	
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="width: 10%;">郵便番号</td><td style="width: 90%;"></td></tr> <tr><td>都道府県</td><td></td></tr> <tr><td>市区町村名</td><td></td></tr> <tr><td>番地</td><td></td></tr> <tr><td>ビル名</td><td></td></tr> <tr><td>責任者名</td><td></td></tr> <tr><td>ご送付先</td><td></td></tr> </table>				郵便番号		都道府県		市区町村名		番地		ビル名		責任者名		ご送付先	
郵便番号																	
都道府県																	
市区町村名																	
番地																	
ビル名																	
責任者名																	
ご送付先																	
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="width: 10%;">お手数をおかけいたしますが、ご回答内容の確認のため、 ご連絡させて顶く場合はござりますので、下記事項のご 記入をお願いいたします。</td><td style="width: 90%;"></td></tr> </table>				お手数をおかけいたしますが、ご回答内容の確認のため、 ご連絡させて顶く場合はござりますので、下記事項のご 記入をお願いいたします。													
お手数をおかけいたしますが、ご回答内容の確認のため、 ご連絡させて顶く場合はござりますので、下記事項のご 記入をお願いいたします。																	
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="width: 10%;">■2006年6月以降、合併・分割や、資本金額10億円未満へ の減資などの変更がございましたら、ご記入下さい。</td><td style="width: 90%;"></td></tr> </table>				■2006年6月以降、合併・分割や、資本金額10億円未満へ の減資などの変更がございましたら、ご記入下さい。													
■2006年6月以降、合併・分割や、資本金額10億円未満へ の減資などの変更がございましたら、ご記入下さい。																	
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="width: 10%;">ご担当部</td><td style="width: 90%; text-align: right;">課・グループ</td></tr> <tr><td>お役職名</td><td>.....</td></tr> <tr><td>ご担当者名</td><td>.....</td></tr> <tr><td>t e l</td><td>—</td></tr> <tr><td>f a x</td><td>—</td></tr> <tr><td>e-mail</td><td>.....</td></tr> </table>				ご担当部	課・グループ	お役職名	ご担当者名	t e l	—	f a x	—	e-mail		
ご担当部	課・グループ																
お役職名																
ご担当者名																
t e l	—																
f a x	—																
e-mail																
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="width: 10%;">■本調査のお問い合わせ先</td><td style="width: 90%; text-align: right;">□</td></tr> <tr><td>日本政策投資銀行</td><td>調査部</td></tr> <tr><td>〒100-0004 東京都千代田区大手町1丁目9番1号</td><td>設備投資計画調査担当</td></tr> <tr><td>tel:0120-861-945</td><td></td></tr> <tr><td>fax:0120-863-954</td><td></td></tr> <tr><td>e-mail:cap@dbj.go.jp</td><td></td></tr> </table>				■本調査のお問い合わせ先	□	日本政策投資銀行	調査部	〒100-0004 東京都千代田区大手町1丁目9番1号	設備投資計画調査担当	tel:0120-861-945		fax:0120-863-954		e-mail:cap@dbj.go.jp			
■本調査のお問い合わせ先	□																
日本政策投資銀行	調査部																
〒100-0004 東京都千代田区大手町1丁目9番1号	設備投資計画調査担当																
tel:0120-861-945																	
fax:0120-863-954																	
e-mail:cap@dbj.go.jp																	
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="width: 10%;">誠に恐縮でございますが、2007年6月22日(金)までにご回答をお願いいたします。</td><td style="width: 90%;"></td></tr> <tr><td colspan="2">■設備投資計画調査として、総括票(本票)のほかに、以下の各票種がございましたら、御別業(新規事業用)にご記入下さい。</td></tr> <tr><td colspan="2">■該当しない兼業票がございましたら、御別業(新規事業用)にご記入下さい。</td></tr> </table>				誠に恐縮でございますが、2007年6月22日(金)までにご回答をお願いいたします。		■設備投資計画調査として、総括票(本票)のほかに、以下の各票種がございましたら、御別業(新規事業用)にご記入下さい。		■該当しない兼業票がございましたら、御別業(新規事業用)にご記入下さい。									
誠に恐縮でございますが、2007年6月22日(金)までにご回答をお願いいたします。																	
■設備投資計画調査として、総括票(本票)のほかに、以下の各票種がございましたら、御別業(新規事業用)にご記入下さい。																	
■該当しない兼業票がございましたら、御別業(新規事業用)にご記入下さい。																	
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="width: 10%;">主業</td><td style="width: 90%;"></td></tr> <tr><td>業業 1</td><td>業業 6</td></tr> <tr><td>業業 2</td><td>業業 7</td></tr> <tr><td>業業 3</td><td>業業 8</td></tr> <tr><td>業業 4</td><td>業業 9</td></tr> <tr><td>業業 5</td><td>業業 10</td></tr> </table>				主業		業業 1	業業 6	業業 2	業業 7	業業 3	業業 8	業業 4	業業 9	業業 5	業業 10		
主業																	
業業 1	業業 6																
業業 2	業業 7																
業業 3	業業 8																
業業 4	業業 9																
業業 5	業業 10																
□ G H □ Z □ ZZ □ EX																	
20070601																	

会社コード

[5] 貴社の海外における設備投資額を投資先地域別にお知らせ下さい。

2006年度実績		備考（主な投資内容等）
百万円	百万円	
北米	百万円	
歐州	百万円	
中 國	百万円	
アジア	百万円	
そ の 他	百万円	
そ の 他	百万円	
合 計	百万円	

(注)
1. 海外における設備投資額は、連結決算を作成されている場合は、連結ベースの設備投資をご記入下さい。連結計算を生成されていない場合は、本体及び出資比率(間接を含む)が50%以上の海外子会社による設備投資をご記入下さい。

2. 設備投資の定義は、「(1)注1」と同様としてご記入下さい。

3. 各年度ごとの全ての項目がゼロの場合、「0」のご記入は合計欄のみで結構です。

ご記入にあたってのお願い(総括票・個別票共通)

○コンピュータ処理の都合上、数値をご回答いただく項目につきましては、枠内には数字のみを
ご記入下さい。ようお願いいたします「(ー)」や「(△)」や「未定」は読み取れません)。

○数値がゼロの場合、ご面倒ですが「0」をご記入下さい。
ただし総括票の「3」および「5」、個別票の「1」につきましては、「0」の記入は合計欄のみで結構です。また、個別票の「8」につきましてはゼロの項目はご記入不要です。

○筆記用具は、鉛筆またはシャープペンシル、または黒ボールペンでも結構です。

○金額はすべて百万円単位でご記入下さい(百円未満は四捨五入)。

○回答用紙は直接コンピュータ処理しますので、折り曲げないようお願いいたします。

その他の詳細は、お手数ですが別紙「ご記入要領」をご覧下さい。



総括票
貴社名 主要業種名

この送付票は、全社ベースの数字をご回答下さい。

[1] 貴社の総設備投資額(国内)を単純法算ベースでお知らせ下さい。

2006年度実績 2007年度計画(予定)
2008年度計画(予定)

（注）各個別項目は、各個別項目の合計額を示す。

- 1.設備投資額は、原則として建設固定資産及び構築物、機械装置及び運搬具、工具、器具及び備品等の新規計上額(零用料)を除いて、既存資本を控除せよ。すなはち工事ベースとして下さい。また、リース(賃借)物件を除いて、自社所有の有形固定資産のみご回答下さい。
- 2.「総設備投資額」は、各個別項目の合計額を示す。
- 3.年度は、4月に始まり翌年1月に終わる会計年度をいいます。ただし、貴社決算期が3月以外などの理由で、年度での回答が困難な場合には、当該年度に対する貴社の決算期区分によりご回答下さい。
- 4.会後の「計画額」については、公式な計画がまだない場合、概数でも結構ですので、出来るだけ数字の形でご回答頂ければ幸いです。

[3] 貴社の情報化投資額を単純法算ベースでお知らせ下さい。

	2006年度実績	2007年度計画(予定)	備考(主な投資内容等)
資 a 有形固定資産	□□□□□□□□□□□□	□□□□□□□□□□□□	百万円
b 無形固定資産、 資本的財産(商号など)	□□□□□□□□□□□□	□□□□□□□□□□□□	百万円
総 b その他の資産	□□□□□□□□□□□□	□□□□□□□□□□□□	百万円
c リース契約額	□□□□□□□□□□□□	□□□□□□□□□□□□	百万円
資 d その他の債務	□□□□□□□□□□□□	□□□□□□□□□□□□	百万円
合 計	□□□□□□□□□□□□	□□□□□□□□□□□□	百万円

- （注）1.「情報化投資」とは、貴社で情報化開発投資と認識されている範囲、自社の業務効率化や生産性向上などを目的とした投資で、具体的には、コンピュータ及び周辺機器、通信ネットワーク機器、ならびにソフトウェア開発費等をご記入下さい。
 2.投資額含む、経費処理額は、当該年度に新たに発生する金額のみご記入下さい。
 3.資産計上するかについて未定の場合は、その金額は全額資産の方に計上し、備考欄に「うち未定○○百万円」と記入下さい。
 4.「リース契約額」は、当該年度の支払リース料ではなく、契約額をご記入下さい。
 5.その他経費処理額は、費用処理されるソフトウェア取扱費(操作費を含む)、備品費として処理されるパソコンや事務用機器等、費用処理する際の消費税は含みません。
 6.各年度ごとの全ての項目がゼロの場合、「0」のご記入は合併欄のみで結構です。
 7.ご記入にあたっては、ご記入要領6、「参考欄B」をご覧下さい。

[2] 貴社の売上高、経常損益などを単純法算ベースでお知らせ下さい。

	2006年度実績	2007年度計画(予定)	備考(主な研究開発内容等)
売 上 高	□□□□□□□□□□□□	□□□□□□□□□□□□	百万円
経 常 損 益 (一)	□□□□□□□□□□□□	□□□□□□□□□□□□	百万円
税引後純損益 (一)	□□□□□□□□□□□□	□□□□□□□□□□□□	百万円
減価償却費	□□□□□□□□□□□□	□□□□□□□□□□□□	百万円

（注）マイナスの場合は、数字の先頭に「-」でご記入下さい。

[4] 貴社の研究開発費を単純法算ベースでお知らせ下さい。

	2006年度実績	2007年度計画(予定)	備考(主な研究開発内容等)
研究開発費	□□□□□□□□□□□□	□□□□□□□□□□□□	百万円
（注）1.研究開発費には、研究開発に關わる人件費、原材料費、固定資産の減価償却費および間接費の配賦額等の総費用をご記入下さい。 2.細かい点は、貴社が開示資料や社内で使用されている定義に合わせて頂いて結構です。			

裏面もご覧下さい。

個別票

会社コード
業種コード
兼業 No.

この以外の業種(ご記入要領C-1及びC-2「業種分類表」に記載の業種)で設備投資がございました、
同封の「個別票(新規業種用)」に記入下さい。

貴社名	業種名
-----	-----

[6] 貴社の当該業種の業種別設備投資額をお知らせ下さい。

2006年度実績		2007年度計画(予定)		2008年度計画(予定)	
百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円
□□□□□□□□□□	□□□□□□□□□□	□□□□□□□□□□	□□□□□□□□□□	□□□□□□□□□□	□□□□□□□□□□

(注)
1.設備投資のうちどの業種にも分類しがたい設備投資(例えば本社建物の建築等)については、
上記業種名欄に「主業」と印字されている個別票に合算してご記入下さい。
2.各個別票の[6]業種別設備投資額の合計は、総括票[1]の「総設備投資額」と一致した金額
になります。



[7] 貴社の[6]業種別設備投資額のうち主要な案件について明細をお知らせ下さい。

事業所名 (都道府県名)	設備投資工事明細	2006年度 計	2007年度 計	2008年度 計

(注)ご記入にあたっては、ご記入要領[6]ご参照欄Aをご覧下さい。

20070602

会社コード
業種名

〔8〕貴社の[6]業種別設備投資額のうち2006年度及び2007年度
(株式)お知らせ下さい。
また、「(F)その他」に記入がある場合は、その主な内容を()内に記入下さい。

投資動機	2006年度実績	2007年度計画(予定)
(A)能力増強投資	□□□□	□□□□
(B)新製品・製品高度化投資	□□□□	□□□□
(C)合理化・省力化投資	□□□□	□□□□
(D)研究開発投資	□□□□	□□□□
(E)維持・補修投資	□□□□	□□□□
(F)その他	□□□□	□□□□
合 計	100%	100%
	()	()

(注)
1.「(A)能力増強投資」は、既存製品・サービス等に關わる量的拡大を目的とした新・増設投資を指します。ビルの新築・増築、軌道の増々縦化、営業所の新設等、通信業のサービスエリア拡大等はこの中に含まれれます。
2.「(B)新製品・製品高度化投資」は、新製品・サービスの提供または既存製品・サービスの品質向上・高付加価値化に關わる新・増設投資を指します。既存ビルの整備やサービス向上を目指したりリニューアル、通信業の広帯域化等はこの中に含まれます。
3.「(E)その他」は、上記(A)～(D)以外の環境対策投資、厚生施設整備投資、バリアフリー投資等を指します。軌道の高架化等はこの中に含まれれます。
4.「(F)その他」の主な内容

裏面もご覧下さい。

貴社名
業種名
[9] 貴社の[6]業種別設備投資額を都道府県別にお知らせ下さい。

地域	都道府県	2006年度実績 百万円	2007年度計画(予定) 百万円	2008年度計画(予定) 百万円
北海道	青森			
東	岩手			
北	宮城			
北	秋田			
北	山形			
福島	福島			
新潟	新潟			
茨城	茨城			
栃木	栃木			
群馬	群馬			
北関東	東甲信			
長野	山梨			
埼玉	長野			
首	千葉			
都	東京			
國	神奈川			
北	富山			
陸	石川			
福井	福井			
岐	岐阜			
東	静岡			
海	愛知			
三重	三重			
地域別合計				

〔6〕業種別設備投資額を都道府県別にお知らせ下さい。
〔9〕地域別設備投資額と一一致した金額になります。

〔注〕「地域別合計」は、裏面〔6〕「業種別設備投資額」と一致した金額になります。

2.都道府県別に分類できない投資は、本社所在都道府県に加算してご記入下さい。

3.船舶の運送分類は、船運送を基準として下さい。

4.送電線、鉄道路線等も、できるだけ都道府県別に分類してご記入下さい。

5.上記全年度にわたり、投資のない都道府県への「0」のご記入は結構です。

ご協力誠に

ありがとうございました。

（注）1.「地域別合計」は、裏面〔6〕「業種別設備投資額」と一致した金額になります。

2.都道府県別に分類できない投資は、本社所在都道府県に加算してご記入下さい。

3.船舶の運送分類は、船運送を基準として下さい。

4.送電線、鉄道路線等も、できるだけ都道府県別に分類してご記入下さい。

5.上記全年度にわたり、投資のない都道府県への「0」のご記入は結構です。

ご協力誠に

ありがとうございました。

[3] 貴社の[1]の国内設備投資額の内訳を都道府県別にお知らせ下さい。

地域	都道府県	2006年度実績		2007年度計画		2008年度計画	
		実 現	目 的	実 現	目 的	実 現	目 的
北海道							
	青森						
岩手							
宮城							
秋田							
山形							
福島							
新潟							
茨城							
栃木							
群馬							
山梨							
長野							
北関東	甲信						
	埼玉						
	千葉						
	東京						
	神奈川						
富山							
石川							
福井							
岐阜							
静岡							
愛知							
三重							

(単位：百万円)

地域	都道府県	2006年度実績		2007年度計画		2008年度計画	
		基 本 方 面	基 本 方 面	基 本 方 面	基 本 方 面	基 本 方 面	基 本 方 面
滋 賀							
京 都							
大 阪							
兵 庫							
奈 良							
和歌山							
鳥 取							
鳥 根							
岡 山							
國 廣							
山 口							
德 島							
香 川							
愛 媛							
高 知							
福 岡							
佐 賀							
長 崎							
熊 本							
大 分							
州 宮 崎							
鹿兒島							
沖 縄							
合 計							

会社コード

(3)

(2)

『調査』既刊目録

— 最近刊の索引 —

- ・ 94 (2007. 9) 設備投資計画調査報告 (2007年6月)
- ・ 93 (2006.12) 日本のM&A動向と企業財務の改善効果 (2006年12月)
- ・ 92 (2006. 9) 設備投資計画調査報告 (2006年6月)
- ・ 91 (2006. 6) ドイツにおけるブラウンフィールド再開発－用地リサイクルにみる環境リスク管理－
- ・ 90 (2006. 5) 半導体産業の国際競争力回復に向けた方策
- ・ 89 (2006. 5) 都市集積の評価と建物コンバージョン事業による地域再生の可能性
- ・ 88 (2006. 4) 今後の物流ビジネスにおけるモーダルシフトへの動き－鉄道貨物輸送を中心に－
- ・ 87 (2006. 2) 設備投資計画調査報告 (2005年11月)
- ・ 86 (2005. 9) 企業の資金余剰と使途の変化
- ・ 85 (2005. 9) 設備投資計画調査報告 (2005年6月)
- ・ 84 (2005. 7) わが国企業の知的財産有効活用に向けて
- ・ 83 (2005. 5) 燃料電池の現状と普及に向けた課題
- ・ 82 (2005. 3) RFID(ICタグ)の本格的な普及に向けて
- ・ 81 (2005. 3) 研究開発の循環性、収益性の検討
- ・ 80 (2005. 3) 防災マネジメントによる企業価値向上に向けて
- ・ 79 (2005. 3) 進展するITS(高度道路交通システム)の現状と将来展望
- ・ 78 (2005. 3) 技術寿命の短期化と財務構造へ与える影響
- ・ 77 (2005. 2) 最近の経済動向
- ・ 76 (2005. 2) 企業の設備投資行動とイノベーション創出に向けた取り組み
- ・ 75 (2005. 1) 水循環の高度化に関する技術動向と展望
- ・ 74 (2005. 1) 日本企業の設備効率向上に向けた取り組みと課題
- ・ 73 (2005. 1) 設備投資計画調査報告(2004年11月)
- ・ 72 (2004.12) 最近の経済動向
- ・ 71 (2004.12) 人的資本の蓄積と生産性の変化
- ・ 70 (2004.10) 中国国内物流の現状
- ・ 69 (2004. 9) 循環型社会における塩化ビニル樹脂の可能性
- ・ 68 (2004. 9) 設備投資計画調査報告(2004年6月)
- ・ 67 (2004. 8) 日本のイノベーション能力と新技術事業化の方策
- ・ 66 (2004. 7) 最近の経済動向
- ・ 65 (2004. 6) 企業の資金調達動向

— 分野別の索引 —

〔設備投資アンケート〕

◇設備投資計画調査

- ・ 2006・07・08年度 (2007年6月) 94 (2007. 9)
- ・ 2005・06・07年度 (2006年6月) 92 (2006. 9)
- ・ 2005・2006年度 (2005年11月) 87 (2006. 1)
- ・ 2004・05・06年度 (2005年6月) 85 (2005. 9)
- ・ 2004・2005年度 (2004年11月) 73 (2005. 1)
- ・ 2003・04・05年度 (2004年6月) 68 (2004. 9)
- ・ 2002・03・04年度 (2003年8月) 58 (2003.10)
- ・ 2002・2003年度 (2003年2月) 51 (2003. 3)
- ・ 設備投資計画調査統計集 (1990年度以降) 50 (2003. 1)
- ・ 2001・02・03年度 (2002年8月) 45 (2002.10)
- ・ 2001・2002年度 (2002年2月) 37 (2002. 3)
- ・ 2000・01・02年度 (2001年8月) 28 (2001.10)
- ・ 2000・2001年度 (2001年2月) 21 (2001. 3)
- ・ 1999・2000・01年度 (2000年8月) 15 (2000.10)

〔経済・経営〕

◇最近の経済動向

- ・ 景気の踊り場にある日本経済 77 (2005. 2)
- ・ 我が国産業構造の中期見通し 72 (2004.12)
- ・ 國際商品市況の上昇が企業の投入・産出行動に与える影響 66 (2004. 7)
- ・ 資金循環と金融を中心とする日本経済の中期シナリオの検討 59 (2003.12)
- ・ 日本経済の持続可能性に向けた中期シナリオの検討 49 (2002.12)
- ・ グローバル化と日本経済 38 (2002. 7)
- ・ デフレ下の日本経済と変化への兆し 31 (2001.12)
- ・ デフレ下の日本経済 26 (2001. 7)
- ・ 今次景気回復の弱さとその背景 19 (2001. 3)
- ・ ITから見た日本経済 12 (2000. 8)
- ・ 90年代を振り返って 4 (2000. 1)

*当行のWebページ (<http://www.dbj.go.jp/report/>) では、『調査』発刊開始(1973年)以来の全目録を掲載しており、2001年4月発行の第26号以降については全文をご覧頂くことができます。

*『調査』入手のご希望については、調査部 (Tel: 03-3244-1840 e-mail: report@dbj.go.jp) までお問い合わせ下さい。

◇日本経済一般

- ・人的資本の蓄積と生産性の変化 71 (2004.12)
- ・コスト面からみた資本、労働の動き 60 (2004. 3)
- ・日本企業の生産性と技術進歩 44 (2002. 8)

◇金融・財政

- ・企業の資金余剰と使途の変化 86 (2005. 9)
- ・企業の資金調達動向 65 (2004. 6)
 - 銀行借入と代替的な資金調達手段について—
- ・邦銀の投融資動向と経済への影響 41 (2002. 8)
- ・社会的責任投資（SRI）の動向 40 (2002. 7)
 - 新たな局面を迎える企業の社会的責任—
- ・近年の企業金融の動向について 35 (2002. 3)
 - 資金過不足と返済負担—

◇設備投資・企業経営

- ・日本のM&A動向と企業財務の改善効果 93 (2006.12)
- ・企業の設備投資行動とイノベーション創出に向けた取り組み
 - 設備投資行動等に関する意識調査結果
(2004年11月実施) —
- ・日本企業の設備効率向上に向けた取り組みと課題 74 (2005. 1)
 - 意識調査と財務データからみた特徴—
- ・デフレ下の資本財価格低下と設備投資への影響 62 (2004. 4)
 - 財別・産業別価格データによる計測—
- ・設備投資・雇用変動のミクロ的構造 43 (2002. 8)
- ・ROAの長期低下傾向とそのミクロ的構造 30 (2001.12)
 - 企業間格差と経営戦略—

◇消費・貯蓄・雇用

- ・将来不安と世代別消費行動 46 (2002.10)
- ・労働分配率と賃金・雇用調整 34 (2002. 3)
- ・家計の資産運用の安全志向について 16 (2000.10)
- ・企業の雇用創出と雇用喪失 6 (2000. 3)
 - 企業データに基づく実証分析—
- ・消費の不安定化とバブル崩壊後の消費環境 1 (1999.10)
- ・人口・世帯構造変化が消費・貯蓄に与える影響 248 (1998. 8)
- ・資産価格の変動が家計・企業行動に与える影響の日米比較 244 (1998. 7)
- ・近年における失業構造の特徴とその背景 240 (1998. 4)
 - 労働力フローの分析を中心に—

◇貿易・直接投資

- ・変貌するわが国貿易構造とその影響について 29 (2001.11)
 - 情報技術関連(IT)貿易を中心には—

◇海外経済

- ・中国による対日直接投資と中国人留学生による日本での起業
 - 中国経済の活力を日本に取りむために—
- ・中国の経済発展と外資系企業の役割 47 (2002.11)
- ・米国の景気拡大と貯蓄投資バランス 8 (2000. 4)
- ・米国経済の変貌 255 (1999. 5)
 - 設備投資を中心に—
- ・アジアの経済危機と日本経済 253 (1999. 3)
 - 貿易への影響を中心に—

[産業・技術・環境]

◇最近の産業動向

- ・わが国企業の知的財産有効活用に向けて 84 (2005. 7)
 - 企業内の非中核技術と環境技術の活用を中心に—
- ・主要産業の生産は、素材、資本財産業を中心へ減少へ 27 (2001. 7)
- ・内需の回復続き、多くの業種で生産増加 13 (2000. 8)
- ・輸出はアジア向けで堅調、内需は回復に力強さがみられず 5 (2000. 1)
- ・全般的に緩やかな回復の兆し 260 (1999. 8)

◇技術開発・新規事業

- ・燃料電池の現状と普及に向けた課題 83 (2005. 5)
- ・研究開発の循環性、収益性の検討 81 (2005. 3)
 - 設備投資との比較を中心に—
- ・技術寿命の短期化と財務構造へ与える影響 78 (2005. 3)
- ・日本のイノベーション能力と新技術事業化の方策 67 (2004. 8)
 - カーブアウト等による新産業創造—
- ・90年代以降の企業の研究開発動向 63 (2004. 4)
- ・製造業における技能伝承問題に関する現状と課題 261 (1999. 9)
- ・最近のわが国企業の研究開発動向 247 (1998. 8)
 - 技術融合—
- ・わが国企業の新事業展開の課題 243 (1998. 7)
 - 技術資産の活用による経済活性化への提言—

◇環境・防災・地域

- ・ドイツにおけるブラウンフィールド再開発
—用地リサイクルによる環境リスク管理—
91 (2006. 6)
- ・都市集積の評価と建物コンバージョン事業による地域再生の可能性
89 (2006. 5)
- ・防災マネジメントによる企業価値向上に向けて
—防災SRI(社会的責任投融資)の可能性—
80 (2005. 3)
- ・水循環の高度化に関する技術動向と展望
—水処理ビジネスの新たな展開—
75 (2005. 1)
- ・LCA(ライフ・サイクル・アセスメント)
による温暖化対策の改善
64 (2004. 4)
- ・都市環境改善の視点から見た建築物緑化の展望
—屋上緑化等の技術とコストを中心に—
61 (2004. 4)
- ・素材型産業を核とした資源循環クラスターの展開
—リサイクルビジネスの高度化に向けて—
55 (2003. 7)
- ・企業の温暖化対策促進に向けて
53 (2003. 5)
- ・食品リサイクルとバイオマス
48 (2002.12)
- ・使用済み自動車リサイクルを巡る展望と課題
36 (2002. 3)
- ・都市再生と資源リサイクル
—資源循環型社会の形成に向けて—
33 (2002. 2)
- ・環境情報行政とITの活用
—環境行政のパラダイムシフトに向けて—
32 (2002. 1)
- ・家電リサイクルシステム導入の影響と今後
—リサイクルインフラの活用に向けて—
20 (2001. 3)
- ・わが国環境修復産業の現状と課題
—地下環境修復に係る技術と市場—
3 (1999.10)

◇化学・バイオ

- ・循環型社会における塩化ビニル樹脂の可能性
—建材用途拡大と使用後処理の多様化—
69 (2004. 9)
- ・資源循環型社会で注目される生分解性プラスチック
—“バイオマス由来”的特性で広がる用途展開—
56 (2003. 9)
- ・わが国化学産業の現状と将来への課題
—企業戦略と研究開発の連繋—
14 (2000. 9)

◇自動車・電機・電子・機械

- ・半導体産業の国際競争力回復に向けた方策
90 (2006. 5)
- ・進展するITS(高度道路交通システム)の現状と将来展望
79 (2005. 3)
- ・わが国電気機械産業の課題と展望
—総合電気機械メーカーの事業再編
と将来展望—
42 (2002. 8)
- ・わが国半導体製造装置産業のさらなる発展
に向けた課題
—内外装置メーカーの競争力比較から—
23 (2001. 3)

- ・労働安全対策を巡る環境変化と機械産業
10 (2000. 6)
- ・わが国自動車・部品産業をめぐる国際的再編の動向
9 (2000. 4)
- ・わが国半導体産業における企業戦略
—アジア諸国の動向からの考察—
259 (1999. 8)
- ・わが国機械産業の更なる発展に向けて
—工作機械産業の技術シーズからみた将来展望—
257 (1999. 5)

◇エネルギー・新エネルギー

- ・分散型電源におけるマイクロガスタービン
—その現状と課題—
24 (2001. 3)

◇運輸・流通

- ・今後の物流ビジネスにおけるモーダルシフトへの動き
—鉄道貨物輸送を中心に—
88 (2006. 4)
- ・中国国内物流の現状
—進出日系企業の視点から—
70 (2004.10)
- ・地方民鉄の現状
—輸送密度の相関分析—
52 (2003. 4)
- ・物流の新しい動きと今後の課題
—3PL(サードパーティロジスティクス)からの示唆—
25 (2001. 3)
- ・消費の需要動向と供給構造
—小売業の供給行動を中心に—
18 (2000.12)

◇情報・通信・ソフトウェア

- ・RFID(ICタグ)の本格的な普及に向けて
82 (2005. 3)
- ・ブロードバンド時代のデジタルコンテンツ・ビジネス
—映像コンテンツ流通を中心に—
54 (2003. 6)
- ・ケーブルテレビの現状と課題
—ブロードバンド時代の位置づけについて—
22 (2001. 3)
- ・エレクトロニック・コマース(EC)の
産業へのインパクトと課題
246 (1998. 8)

◇医療・福祉・教育・労働

- ・少子高齢化時代の若年層の人材育成
—企業外における職業教育機能の充実に向けて—
39 (2002. 7)
- ・労働市場における中高年活性化に向けて
—求められる再教育機能の充実—
11 (2000. 6)
- ・高齢社会の介護サービス
249 (1998. 8)

本号についてのお問い合わせは、
下記までお願いいたします。

調査部
設備投資計画調査担当
TEL: 03-3244-1845
e-mail: capex@dbj.go.jp

なお、当行の Web ページ (<http://www.dbj.go.jp/report/>) では『調査』に関する読者アンケートのフォームを掲載しております。今後の『調査』刊行に際して参考とさせていただきたく、皆様のご感想やご意見などをお聞かせ願えれば幸いです。

ISSN 1345-1308

2007年9月12日

調査 第94号

編集 日本政策投資銀行
調査部長 鍋山徹

発行 日本政策投資銀行
〒100-0004
東京都千代田区大手町1丁目9番1号
電話(03)3244-1840
(調査部問い合わせ先)
e-mail: report@dbj.go.jp
ホームページ <http://www.dbj.go.jp>

(印刷 O T P)